

浜プランの進捗状況と課題の抽出



甫喜本憲¹（研究代表者：写真）、大谷誠¹、児玉工¹

¹ 水産研究・教育機構 水産大学校 水産流通経営学科

研究の目的

浜プランとは、地域単位で漁業経営の収益性向上を実現するための取組を計画するものです。計画が国に認定されたら補助事業も導入が可能になります。そこで本研究では、浜プランを効果的に活用しながら、よりよい地域水産業の樹立が図れるための方策について検討します。

研究の成果

地域水産業の振興のための新たな取組を、大きく「前浜漁場の利用・管理に関する取組」（図1）と「水産物の流通・販売に関する取組」（図2）に分け、課題の認識・動機から計画、実践までの過程を整理しました。

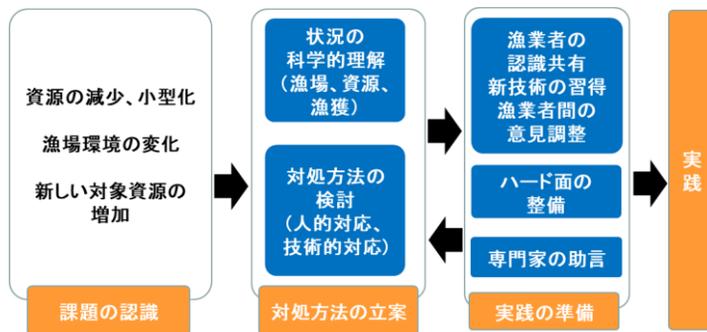


図1 前浜漁場の利用・管理に関する取組の過程

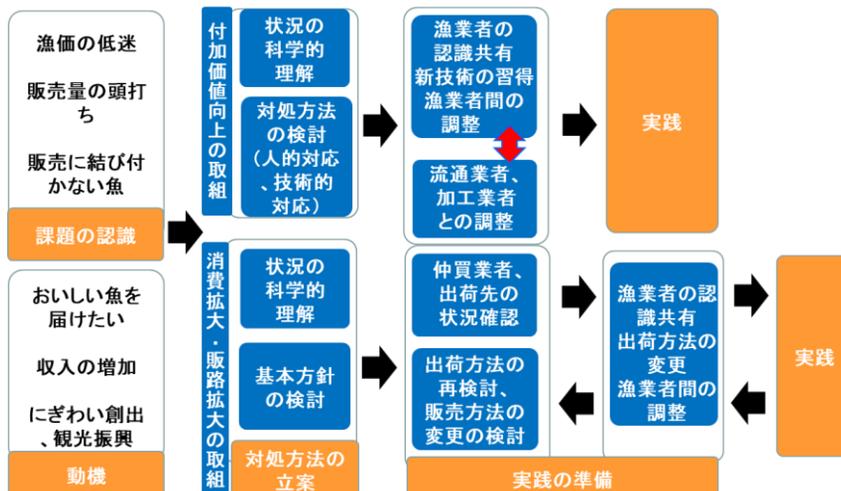


図2 水産物の流通・販売に関する取組の過程

次に経営組織論の観点よりそれぞれの過程での「コミュニケーションの方法」を分類整理し(表1)、各過程でどのように意思決定の手法を用いればよいのかを検討しました。

表1 地域水産振興の意思決定におけるコミュニケーションの方法と特徴

メディア	言語	手がかり、経路	情報伝達の性質	情報伝達の特徴(利点・欠点)	適した利用機会
対面(個別対話)	ボディ・ランゲージ			維持・事実の相互確認	会合前の個別情報や意見の収集
	声のトーン	視覚・聴覚	即時・双方向	情報伝達量:多。即時的な反応。	会合後の個別意見の集約
	自然言語			人間関係に依拠、コミュニケーションの不透明性	
対面(会合・委員会等)	ボディ・ランゲージ	視覚・聴覚	即時・双方向	複数者間の意思・事実の確認、共有	課題認識～対処方法の立案～実践内容の決定
	声のトーン			コミュニケーションの透明性(人間関係に依拠の場合も)	(特に「課題認識～対処方法の立案」が確定した後、細部を詰めたり、最終決定を下す。)
	自然言語			情報伝達量:少。複雑な議論は散漫になりがち	
対面(浜の道具箱)	ボディ・ランゲージ			複数者間の意思・事実の確認、共有	課題認識～対処方法の立案～実践内容の決定
	声のトーン	視覚・聴覚	即時・双方向	コミュニケーションの透明性(人間関係に依拠しない。)	(特に「課題認識～対処方法の立案」が未定の場合、一時的儀容を検討できる。)
	自然言語			議論に基づいた適切な情報量	
メール・FAX	自然言語	限定された視覚	迅速・一方向	意思・事実の伝達、受け手側の慎重な対応が可能。	確定した情報の周知
				解釈のズレの発生、議論の進行に時間がかかる。	会合前・後の個別情報や意思の確認など
電話	自然言語	聴覚	即時・双方向	意思・事実の相互確認	会合前の個別情報や意見の収集
				情報伝達量:多。即時的な反応。	会合後の個別意見の集約
				人間関係に依拠、コミュニケーションの不透明性	確定した情報の周知
文書	自然言語	限定された視覚	違い・一方向	意思・事実の伝達、受け手側の慎重な対応が可能。	確定した情報の周知
				解釈のズレの発生、議論の進行に時間がかかる。	

波及効果・政策提言

- 本研究成果は現行の浜プランの計画改善や来期浜プラン立案に資することができます。
- 今後、漁村高齢化や水産政策の改革などで変化が予想される中、将来的な地域漁業、漁協、地方行政間の関係性の在り方(意思決定の過程と情報ネットワーク)を検討する上で援用することができます(図3)。



図3 研究成果の波及効果